



① 龍神社 ※塩竈神社の社号額は巖谷一六の揮ごう塩田と港町の繁栄を願って、近江勢田の八大龍王を勧請する。境内には塩竈神社や神明橋もあり、ウバメガシが生い茂る。幕末期の波止浜祭礼を描いた絵馬が拜殿に掲げられている。



② 波止浜塩田跡 ※塩田は昭和34(1959)年に廃止天和3(1683)年、安芸竹原の製塩技術を導入することで誕生した、伊予国最初の本格的な入浜式塩田。その後も増築を重ね、明治初年には42軒・約63haの規模を誇った。



③ 八木亀三郎家旧宅 (屋号は升屋。升八木家ともいう) 大正初期に竣工した、波止浜を代表する実業家・八木亀三郎(1863~1938)の店舗・住宅。大正時代に愛媛県一の高額納税者で、今治商業銀行頭取を務め、蟹工船の船主でもあった。



④ 矢野本家 (屋号は濱田屋) 明治初期竣工か波止浜一の塩田地主の住宅で、明治・大正期は愛媛を代表する資産家であった。矢野通保は、今治出身の日本画家・大智勝観のパトロンで知られ、教育・文化振興にも造詣があった。



⑤ 丹波屋八木家 (丹八木家ともいう) 明治20年(頃)竣工波止浜有数の塩田地主(塩問屋)住宅で、八木光三郎は明治初期に醤油の醸造業を始め、同35(1902)年に愛媛最初の本格的洋式造船所となる波止浜船渠(榑)の発起人代表を務めた。



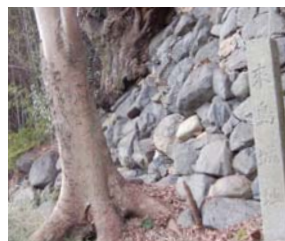
⑥ 石造灯明台 ※かつて側に塩専売庁舎があった  
航海安全を祈願し、嘉永2(1849)年に築造された。花崗岩製で、高さは約6m。塩田開発後、波止浜は松山藩有数の港町として発展し、塩買船や燃料の薪・石炭船で賑わった。

龍神社の祭礼絵馬にも描かれ、明治35年に八木亀三郎らによって現在地に移築される。

来島海峡航路沿いにある周囲 850m の海城で、戦国時代に河野氏・来島村上氏の拠点の一つでした。有名な城主は来島海賊衆頭領の村上通康(1519~67)で、彼は湯築城主・河野弾正少弼通直の娘婿(庶子とも)として河野氏を支え、娘は能島城主の村上武吉や毛利元就の子・穂田元清に嫁いでいます。



来島城跡(石垣・岩礁ピットなどの遺構が残る)



石垣跡  
(自然石の野面積みで裏込め石あり)

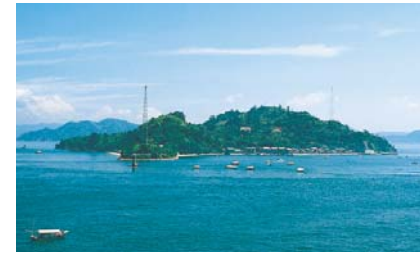


村上通康(画像/安楽寺所蔵)  
※通康の孫・康親は豊後森藩主となる



繋船用の岩礁柱穴跡  
(干潮時に見えます)

来島海峡航路沿いにある周囲 3km の島で、ロシア・バルチック艦隊の瀬戸内海侵入に備えて島内3ヶ所に砲台・堡壘が築かれました(明治35年竣工)。中部堡壘の28cm榴弾砲6門のうち2門が移設され、203高地攻略に使用されたようです。大正末期に要塞は廃止され、昭和2(1927)年に波止浜町の公園となりました。



芸予要塞(小島砲台)跡



北部砲台跡  
(昭和初年の絵葉書より)



弾薬庫跡  
(床下アーチの構造は、防湿目的)



中部堡壘跡  
(榴弾砲の砲座跡が残り、頂上の観測所跡からの眺めは最高)